

防災のプロに聞きました！



つくばみらい消防署
署長

もりた まこと
森田 誠

平成3年、常総地方広域市町村圏事務組合消防本部に入庁。同本部警防課長を経て、令和7年4月からつくばみらい消防署長に。趣味はご飯屋めぐり。

家庭でできる事前準備が大切

水害発生時、消防署では人命救助をはじめ、浸水被害防止や避難誘導といった対応をとりますが、大規模な水害が発生した場合、行政機関が行える対応には、人（職員）・物（車両を含む資機材）に限界があります。そのため、ご家庭でできる事前準備が大切です。具体的にはマイ・タイムラインを活用し、避難先や移動手段、家族との連絡方法の確認を行いましょう。また、水害は地震と異なり、行政機関が発信する事前の情報を収集することで早期の避難行動が可能なので、ぜひ活用してください。

水害時、市民が取るべき行動

まずは、市が発信している避難指示や避難所開設などの情報を収集してください。その情報をもとに、皆さんは、命を守る行動として何が一番安全なのかを考えて行動してください。避難時は、非常用持ち出し品を持って、運動靴を履いて行動してください。長靴を履いてしまうと、水が入った場合に歩けなくなります。また、長い棒を持つことで、避難時に見えにくい用水路の側溝や開いたマンホールの蓋を確認できるため、非常に有効です。



防災課
危機管理監

つちだ まさみ
土田 雅実

昭和57年、伊奈村消防本部（当時）に入庁。つくばみらい消防署長を経て、令和6年4月から防災課・危機管理監に。趣味は映画鑑賞。（危機管理監：災害時、消防の知識や経験を活かし、職員への指導などの役割を果たす）

地域消防・地域防災に欠かせない組織 消防団に入団しませんか？

消防団は、火災や水害などの有事の際に集まって消防活動を行う組織です。団員は非常勤の公務員として扱われ、18歳以上の市内在住・在勤者であれば入団できます。詳しくは市ホームページをご覧ください。



水害に備えて水防訓練を実施



出水時に備え、水防技術の向上と水防体制の連携強化を図り、万全の体制を期するために訓練を行います。

消防団員の声

おおくぼ
大久保さん



知り合いから消防団を勧められ、18年前に入団しました。これまで消防団として活動が続けてこられたのは、災害時などに現場対応した際、市民の方々からの「お疲れさま」「ありがとう」という言葉がとても励みになり、自分も微力ながら貢献できたと感じられるからです。皆さんも一緒に、地域の安全を守る活動に参加しませんか？

自主防災組織の結成をサポートします



自主防災組織とは、自分たちの地域で自分たちでできる防災活動を行うための組織で、本市では **43 組織** が結成されています（4月末時点）。また本市では、自主防災組織を結成し、資機材などを購入した際に **最大 25 万円** を補助します。詳しくは市ホームページをご覧ください。



6月28日(土)
午前中に

市内全域で防災訓練を実施

この防災訓練は、風水害などに備え、家庭や地域・職場などでの「助け合い」はどのようにすればよいかなど、市民一人ひとりが、災害が発生するおそれがあるとき、どのような行動をとるか確認してもらうことを目的に実施します。災害対策には、「自分の命は自分で守る」＝「自助」、「みんなで助け合う」＝「共助」の精神が大切です。

当日の流れ

① 避難行動の呼びかけ

大雨などによる鬼怒川・小貝川の水位上昇を想定し、**午前10時**に防災行政無線や防災アプリなどで避難行動を呼びかけます。

② 避難行動の実施

「避難指示が出た」という想定で、下記の避難行動を実施してください。

- 玄関先までの移動 ○「マイ・タイムライン」の確認
- 備蓄品の確認 ○避難経路・避難所の確認
- 防災情報の取得方法の確認（防災アプリなど）

訓練当日は、防災行政無線で市内全域一斉放送を行いますので、避難行動を確認してください。また、防災アプリなどでも配信を行います。
※今回の想定は洪水ですが、地震が発生した時にも応用できます。浸水が想定される地区だけでなく、高台にお住まいの皆さんも避難行動の確認をお願いします。

当日、伊奈庁舎では職員を対象に初動対応訓練を実施します。「大雨の影響で鬼怒川・小貝川が増水し、氾濫の危険性が高まっている」という想定で、避難行動要支援者の輸送のほか、情報共有室、災害警戒本部の設置など、職員の災害対応を確認します。



前回の様子